平成 20 年 2 月 24 日　下新川海岸高波災害から 10 年

体験発表　小学生での記憶

青木　颯良（あおき　そら）

入善町在住。高波災害当時は、小学校 1 年生で自宅が被害に遭う。現在は、桜井高等学校土木科 3 年生で、将来は公共事業に携わる職業を目指している。

富山県立桜井高等学校土木科 3 年の青木 颯良です。よろしくお願い致します。今から私自身の記憶、両親の記憶をお話します。

私が災害を経験したのは、小学 1 年生のときでした。当時の私は、大変なことが起こったことは知らず自宅の横にある道に水が流れていることを見て楽しんでいました。周りの大人たちが慌てているなかランドセルが流されれば学校に行かなくていいじゃんと考えていました。しばらくして、浸水がひどくなりそろそろ危ないかなと思い祖母と親戚の家に避難することになりました。

どうせすぐに家に戻れるだろうと思っていましたが、数日後に芦崎に戻るとぐちゃぐちゃになった家や公園等を目にしました。今まで見ていた景色が全く違うものになっていました。それから一年半は自宅に住むことができませんでした。

両親から聞いた話によると、大きな波により窓が割れ一階にあった多くのものは流され、近くにあったコンテナが流れてきて外壁を破壊し水をせき止めたそうです。家の中や周りはごみや土砂がたまり、とてもひどい状況でした。そこで初めてこの災害の恐ろしさを知りました。家族でしばらく親戚の家を転々とし、その後下飯野に部屋を借りました。それから平日は学校、土日は家の片付けという日々が続きました。

災害から 6 ヵ月後の 8 月、一緒に暮らしていた祖母が災害のストレスにより突然亡くなりました。前日までは元気だったのに、翌朝突然倒れました。私はおばあちゃん子だったのでそのショックはとても大きかったです。

その半年の間で 2 つの大きなストレスを抱えてしまった私は、精神的に参ってしまい何をしても不安な夜や眠れない日がしばらく続きましたが、その後サッカーを始め立ち直ることができました。

私はこの災害で多くのことを学んだと思います。私の母は避難する際に慌てて大量のハンガーを持って逃げていました。人は慌てると何を持ち出すかわからないので、日ごろから防災グッズの準備をしておくことの大切さを学ぶことができました。

特に人の死の悲しさ、災害の恐ろしさ等を学べたことは、私の人生に大きな影響を与えたと思います。そして桜井高等学校土木科で土木を学ぶきっかけになりました。

災害から 10 年がたち、この災害の記憶が忘れられているところも多くあると思います。私自身思い出したくない記憶もたくさんありましたが、次いつ起こるかわからない災害やこの下新川海岸高波災害の記憶を風化させないためにも、私たちが次の世代に伝えないといけないと思います。

これで終わります。ありがとうございました。